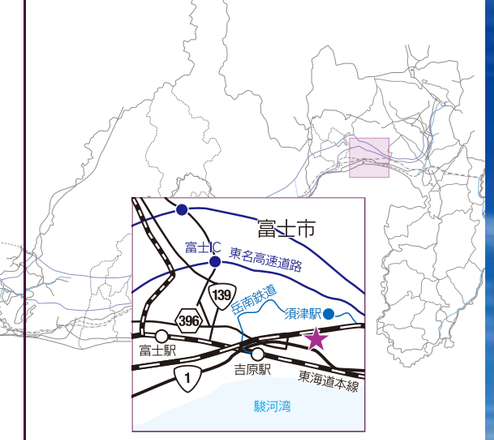

須津の田んぼ

静岡県富士市須津地区
JR東海道線・吉原駅で岳南鉄道に乗り換え、須津駅下車徒歩約10分。
東名高速道路・富士ICより車で約20分。

［問い合わせ先］
富士東部土地改良区
静岡県富士市神谷南179
0545-34-3415

contents

01 ［静岡景観］
須津の田んぼ

03 ［知事対談］
文明観光学は
世直しの学び。
～これからの世界で
大学が果たす役割とは～
静岡文化芸術大学学長
横山俊夫氏

07 ［世界に開かれた観光・通商・外交］
輸出拡大の好機をとらえ
「選ばれる静岡茶」へ

09 ［県政特集］
茶の都しずおかが誇る
世界へ向けた情報発信拠点！
ふじのくに茶の都ミュージアムが
オープン

11 ［スポーツ王国しずおか］
中学生の運動環境を整える
子どもたちに夢と希望を

13 ［ふじのくにブランド］
桜えび

14 ［Living My Dream Life in ふじのくに］
鈴木あゆみさん

レンゲ、富士山、新幹線が美しいコントラストを描き出す須津の田んぼ。
右に見える山は愛鷹山（あしたかやま）。

静岡❖景観

心に留めておきたい美しい日本の心象風景

須津（すど）の田んぼ（富士市）

★富士山のふもとの郷（さと）を守る邑として
静岡県「ふじのくに美しく品格のある邑」登録

薄紅色に染まるレンゲ畑の中を風のように疾走する新幹線。その背後に霊峰富士の青い山体が美しくそびえる。富士市の東南部に位置する水田地帯、通称「須津（すど）の田んぼ」には、絵に描いたような日本の風景が広がっている。写真愛好家や鉄道ファンには知られた名所だ。

須津の田んぼは、かつて「浮島ヶ原」と呼ばれる湿地帯だった。葦（よし）などの多年草植物が繁茂する様子は、歌川広重の浮世絵にも描かれ、昭和の中期までは、稲作農家が胸から腰の高さまで沼に浸かり、手作業で田植えをしていたという記録も残る。昭和50年以降は、急速に圃場整備を進め、現在は534haの、大型機械が入る優良農地となっている。そんな同地区の移り変わりを半世紀にわたって見てきた服部愛一郎さんは、昔ながらのレンゲ畑を復活させようと4年前に「富士山れんげの会」を立ち上げた。

「以前は、ごく当たり前だったレンゲ畑も、稲作の近代化が進む中で見かけなくなりました。そこで、見慣れた風景を後世に伝えようと、収穫後の水田にレンゲの種をまいたのが会の始まりです。今では協力してくれる農家も増え、レンゲ畑の中で遊ぶ子どもの数も増えてきました。レンゲを植えた田んぼは、お米がおいしくなるという評判もあるので、今後は「富士山レンゲ米」のような特産品も育てていきたいですね」と服部さんは夢を語る。

須津の田んぼにレンゲの花が咲くのは、例年4月上旬から5月上旬にかけて。富士山と新幹線とレンゲが織り成す景観は、心に留めておきたい美しい日本の心象風景と言っていいだろう。

農家の協力で、レンゲ畑で花摘み体験をする地元の小学生。
以前はこのような光景も当たり前だった。

地域では田植えや稲刈りなどの農業体験イベントも行われている。

イベントや地場産品などの販売が行われる「富士山れんげまつり」。毎年4月下旬に開催。